

あいち病害虫情報 最新情報

令和2年4月16日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ムギ類の病気

名古屋地方気象台4月16日発表の1か月予報によれば、平年と同様に晴れの日が多い見込みですが、今後1～2週間気温の低い状況が続きます。ムギ類うどんこ病の好適条件が続きますので、病気の発生状況を注視し、適期防除に努めましょう。生育が早いコムギほ場では、複数地域でうどんこ病が確認されており、上位葉まで発病しているほ場もあります。罹病葉は早く枯れあがり、葉鞘、茎、穂に進展すると稔実が悪くなるので、うどんこ病の発生しているほ場では、防除を行いましょ。また、発生初期は下葉から病斑が現れるので、株元まで薬剤が到達するように散布しましょ。

ムギ類赤かび病は、開花期から乳熟期に降雨が多く、気温が比較的高い(20～27℃)と急激に感染が拡大します。これから出穂を迎えるほ場では、今後の気象状況を注視し、開花期の防除を行いましょ。また、ムギ類赤かび病に適用がある薬剤の多くは、ムギ類赤さび病とうどんこ病にも適用があります。今作、既に使用した薬剤は避け、FRACコードを参考に、作用機構が異なる薬剤を選定するよう工夫しましょ。

水稻の育苗期防除

普通期栽培のは種作業が始まります。次の1～7に注意して適正な種子消毒に努めましょ。

- 1 細菌性病害にも効果のあるテクリードCフロアブルなどを用いて、種子消毒を行いましょ。
- 2 浸漬処理法の場合、薬液温度は15～20℃とし、処理濃度と時間を守り、処理後、種子に薬剤を十分に付着させるためによく風乾しましょ。
- 3 温湯種子消毒の場合、適切な処理温度、時間(例：60℃、10分)を守りましょ。
- 4 高温での浸種や長時間催芽は細菌感染を助長するので避けましょ。
- 5 出芽温度は30～32℃を守りましょ。
- 6 種子消毒後の廃液は、適切に処理しましょ。浸漬処理後の廃液処理が困難な場合には、種子粉衣(湿粉衣法)や塗沫法などの消毒方法に切り替えましょ。また、エコープDJなどの微生物農薬や温湯種子消毒を利用する方法もあります。ただし、微生物農薬による種子消毒は、薬液の温度が10℃以下、30℃以上では効果が劣るので、処理温度に注意しましょ。
- 7 種子消毒後は病原菌の汚染がないよう管理しましょ。

イネ縞葉枯病対策

ヒメトビウンカ越冬世代のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、昨年よりもやや高い状況です。あきたこまちやコシヒカリなど本病に対して感受性のある品種を移植栽培する場合は、生育初期の本病の感染を防ぐため、育苗箱施薬等でヒメトビウンカを防除しましょう。

落葉果樹の病害虫

ナシ黒星病は4月上旬の花そう基部での発生量は平年並です。また、ナシ赤星病の感染時期を迎えています。近年発生が多くなっているため、黒星病とともに防除しましょう。

モモを加害するクワシロカイガラムシの防除適期は、1齢幼虫の発生ピークです。4月15日までの実測値を用いてクワシロカイガラムシの1齢幼虫の発生ピーク予測日を計算した結果、表のとおりとなりました。昨年に比べ、クワシロカイガラムシの防除適期も少し早くなっています。

表 クワシロカイガラムシの防除適期

	名古屋	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋
本年予測	5/9	5/14	5/14	5/9	5/10
(前年)	5/11	5/14	5/15	5/12	5/13
前年差	2日早	±0	1日早	3日早	3日早

注)アメダス平均気温から予測。4月15日までは本年実測値を、それ以降は平年値(豊橋は前年値)を用いて計算。

なお、4月下旬にも最新の気象データを用いて計算し直し、情報を提供する予定です。

果樹カメムシ類の飛来はやや多い

果樹カメムシ(チャバネアオカメムシ)の飛来数は、越冬成虫量からおおよそ予測できます。今年のチャバネアオカメムシの越冬成虫量は、平年並です。しかし、昨年秋期(9月)の豊橋市の予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺数は過去10年で1番多く、ツヤアオカメムシも2番目に多い値となっており、今回の越冬量調査ではツヤアオカメムシを複数地点で確認しました。そのため、果樹園への飛来数は6月末までやや多いと予測しています。詳細は、4月3日発表の「果樹カメムシ類情報第1号」を参照してください。

果樹カメムシは夜温が上昇すると、活動が活発になります。今後の園内への飛来状況に注意しましょう。

ナシヒメシンクイの発生に注意!

ナシヒメシンクイのフェロモントラップに越冬世代成虫が誘殺され始め、誘殺ピークを迎えた地域もあります。越冬世代成虫は展葉したモモの葉に産卵し、ふ化した幼虫が新梢に食入して、芯折れを引き起こします。ナシヒメシンクイの防除適期は、卵から幼虫がふ化するタイミングです。早い地域ではまもなく防除適期を迎えると予想されますので、適期を逃さないように防除しましょう。

ウイルス媒介虫を施設外に出さないようにしましょう！

トマト黄化葉巻病やトマト黄化病、キュウリ黄化えそ病の防除対策の基本は、ウイルス媒介虫を「施設内に入れない」、「施設内で増やさない」、「施設外に出さない」の3つです。収穫期間中はウイルス媒介虫であるタバココナジラミ（トマト黄化葉巻病、トマト黄化病）やオンシツコナジラミ（トマト黄化病）、ミナミキイロアザミウマ（キュウリ黄化えそ病）の防除を徹底しましょう。なお、次作の感染源を減らすため、収穫終了後は残さを持ち出す前に施設を密閉して、ウイルス媒介虫を死滅させましょう。

フェロモントラップなどの各種調査データは、HP「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820